

週刊

こんにちは 山田耕平 です

2012.11.8 94

このニュースへのご感想
ご意見をお寄せください!

杉並区善福寺2-2-11
TEL 090-9973-0941
ホームページ
http://yamadakohei.jp



支援募金・支援物資のご協力ありがとうございました!

11月5日 被災地支援に参加しました

宮城県石巻市へ 仮設住宅を訪ねる

十一月五日(月)東日本大震災の被災地支援に参加しました。

この間、継続して支援を行なっている「宮城県石巻市」を訪問しました。

「物資が底を突いている」との現地からの報せを受けての「緊急の支援」となりましたが、杉並区内外から大量の支援物資と支援募金が寄せられました。みなさんのご協力、本当にありがとうございました。

現地では、支援の歓迎を受け、現地責任者に募金や物資を引き渡しました。

募金は「行政への支援金」や「現地で必要とされている支援物資の購入費用」等に活用されます。支援物資は、仮設住宅などで開催される青空市などを通じて、被災者に配布される予定です。



現地の責任者に募金・物資を届けました



仮設住宅の居住者と対話
深刻な実態が語られました

支援募金・支援物資は 責任を持ってお届けしました!

今回、お寄せいただいた支援募金は50万円を超えました。また、お米(お米券100枚なども)や缶詰・レトルト食品などの食料品、自転車3台、暖房器具、衣料品、布団・毛布など、様々な支援物資が寄せられ、責任を持って、被災地にお届けしました。

当初、ワゴンタイプの車に積み込む予定でしたが、大量の支援物資が届いたため、急遽、2トン・トラックを準備し、トラック満載で被災地に届けました。以前の職業(イベント関係)で培ったトラック運転技能も、このような機会に役立つものです。



トラックに積み込まれた物資

支援の継続と共に 政治の責任が問われる

支援物資受け入れ担当者の話では、食料品や日用雑貨(洗剤、トイレトペーパー、石鹸、歯ブラシ等々)などは、厳しい生活環境の中で、生活必需品として、常に求められているとのことでした。

被災者に厳しい生活環境を強いている最大の原因は、「政府の復興支援の遅れ」であり、二度目の厳しい冬を前にして、現地では不安と怒りの声が広がっています。

日本国民が被災地支援を求めるなか、政治の責任を果たさない民主党政権の姿勢が厳しく問われます。

実際に見てきた被災地の現状とは？

震災から一年以上が経過…復興は遅々として進まず



被災地の中でも最大規模の仮設住宅が立ち並ぶ

の声も多く、「被災地を応援する政治に変えてほしい」という期待の声が寄せられました。

福島県のサービスエリア（排水溝）にて

一年以上が経過しても高い放射線量…



被災地までの道中、福島県内のサービスエリア（排水溝）で高濃度の放射線量（2.53μシーベルト）を計測しました。一年以上が経過しても、依然として高い線量です。「原発事故は収束した」などとする政府の無責任な姿勢は許されません。

市街地では瓦礫が片付けられ、店舗なども営業を開始していますが、少し奥に入ると津波の傷跡が生々しく残っている場所も多く、津波被害を受けたままの空き家も多く残っていました。石巻市の仮設住宅では、今も、およそ七千世帯が暮らしています。被災住民の方に話しを聞いてみたところ「仮設で二度目の冬を迎える事になるとは思わなかった。昨年は寒さが非常に厳しかった。水道の凍結などにも悩まされ、今、冬を前にして対策に追われている。」「部屋が狭く、家族が一堂に集まることができな。家族が二人ずつ別の世帯に暮らしている。早く引越したい。」「治安が悪化している。」など、深刻な実態が寄せられました。「政府は被災地のことを考えていない」などの厳しい声も寄せられると共に、日本共産党への激励の声も多く、「被災地を応援する政治に変えてほしい」という期待の声が寄せられました。

仮設住宅の深刻な実態 政治への不信の声

育メン日誌

梨狩りに大興奮！

先日のバスハイク・梨狩りには、息子も参加しました。前日から「ナシ～、バス～」と大騒ぎで、眠りも浅かったので心配しましたが、当日は元気一杯で参加！

同い年のお友だちや従兄弟と一日中、大はしゃぎでした。

子どもたちは、梨もぎ体験に夢中になり、大きくて重い梨を必死に掴んで引っ張っていました。

梨の試食でも、お腹がぱんぱんに膨れるまで食べ続け、いつまでも食べているので、少し心配に…（笑）

参加者のみなさんに、たくさん可愛がってもらい、大満足の日になったと思います。



重い梨を必死にもいでいました（上）
同年代の子どもたちと記念撮影。左は上保予定候補（左）



母校・井草中の落成式に参加

11月6日（火）私の母校である「井草中学校」の落成式に参加しました。

以前の古い校舎（私が通っていた校舎）は耐震上の問題があり、この間、新設工事が行なわれていました。昨年の東日本大震災の際には、体育館の屋根が壊れるなど危険な状態でしたが、この度、新たな校舎が完成しました。生徒が安全に過ごし、地域の防災の拠点ともなる新校舎です。

新築の校舎は、まさに“ピカピカ”で、最新の設備が備えられ、素晴らしい学習環境が準備されていました。

10数年前、私がお世話になった学び舎の面影は、ほとんど残っていませんでしたが、校門の桜の木などは昔のまま。私たちOBにとっても、母校が新たな校舎で再スタートするということは感慨深いものがあります。

これから、この校舎で学ぶ生徒さんにとって、素敵な思い出をたくさん作れる学び舎になってほしいと思います。

校舎の見学では、偶然、小中学校時代の同級生のお子さんが“熱心”に授業を受けている場面に出会いました。

「私たちの世代も次の世代に引き継いでいく」ことをしみじみと感じました。

最新の学習環境

新たな学び舎として



震災時に壊れた体育館も改修されました